

令和6年 第3回定例会

一般質問文書表

稲城市議会

通告番号	氏名	質問項目 (19人、58項目)	備考
1	池田 英司	1 路上喫煙やタバコ等のポイ捨てについて 2 都道川崎街道南多摩水再生センター東交差点の交通安全について	
2	つ の じ 寛 美	1 バス停ソコラ若葉台への屋根の設置について 2 認知症のケア技法「ユマニチュード」の普及啓発について 3 物価高騰・経済対策並びに熱中症対策等について 4 絵本で伝える3.11の普及啓発について 5 自治体DX推進による窓口改革について 6 平尾地域の樹木の根上り対策について	
3	山 岸 太 一	1 介護保険を支える職員不足と待遇改善による人材確保について 2 非正規職員の待遇改善による、誰もが安心して働ける公務職場づくりについて 3 市民の同意のない自衛隊への個人情報の提供について 4 早急な学校給食費無償化の実施について	
4	坂田たけふみ	1 教育支援室(梨の実ルーム)分室の設置及び学びの多様化学校(教室)設置について 2 南多摩尾根幹線及び鶴川街道百村区間の整備について	
5	角 田 政 信	1 『ジャイアンツスタジアム』の開業に向けて 2 稲城市ホームタウンアスリート認定制度について	
6	中 島 健 介	1 稲城市の少子化対策について 2 企業版ふるさと納税について	
7	湯 谷 ひ ろ し	1 「1か月児健康診査」と「5歳児健康診査」の導入について 2 稲城市の空家対策について 3 身寄りのない高齢者等への支援について	
8	川 村 あ や	1 稲城市地域包括支援センターこうようだいの活用について 2 市内小中学校のタブレット端末利用状況およびトラブル回避について	
9	佐 藤 し ん じ	1 稲城第七小学校通学路の安全対策について 2 健康格差の縮小と健康寿命の延伸に関する取り組みについて 3 救急車の適正利用及びLive119映像通報システムの導入について	
10	岩 佐 ゆ き ひ ろ	1 市立小中学校内トイレの管理について 2 電動自転車の普及と促進について 3 特殊詐欺から市民を守る取組について 4 熱中症について	
11	岡 田 ま な ぶ	1 補聴器購入助成など加齢性難聴の聞こえの支援について 2 気候変動対策の推進について 3 路線バス・バスの維持・拡充について 4 少人数学級の拡充について	

12	武田 まさひと	<ul style="list-style-type: none"> 1 公園トイレの設置状況と配置の考え方について 2 避難行動要支援者の個別避難計画および要配慮者利用施設の管理者等の避難確保計画の作成等の義務化の対応について 	
13	村上 洋子	<ul style="list-style-type: none"> 1 校内別室指導支援員の活用状況と今後の取組について 2 子どもの意見表明を促進するための子どもアドボカシーの取組について 3 (仮称)稲城市子ども計画における子どもの年齢の範囲の考え方等について 	
14	梶浦 みさこ	<ul style="list-style-type: none"> 1 (仮称)稲城市若者会議などについて 2 自走式水洗トイレカー(車両)の導入について 3 稲城市職員アルムナイ(元職員)採用について 	
15	田島 きく子	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校の暑さ対策について 2 新型コロナウイルス感染症感染対策について 3 学校トイレへの生理用品の常備について 4 マイナンバー保険証の強制中止について 	
16	土居 のりひろ	<ul style="list-style-type: none"> 1 「TOKYO GIANTS TOWN」活性化の為の取組について 2 市ホームページ全面改修に関わる地域情報発信について 3 法定外公共物の利活用について 	
17	榎本 久春	<ul style="list-style-type: none"> 1 坂浜地域における交通課題や歩行者への配慮について 2 「介護予防・日常生活支援総合事業」の一般介護予防事業の自主グループの活動とフレイル対策について 	
18	いそむらあきこ	<ul style="list-style-type: none"> 1 こども基本法を踏まえた各計画策定について 2 学校管理下での事故発生時等の対応について 3 稲城市立病院に入院する子どもの付き添いへのサポートについて 4 自治体DXの推進について 	
19	鈴木 誠	<ul style="list-style-type: none"> 1 稲城市の防災(救急)に関する取り組みについて 2 市内公共工事、修繕等の外部発注・委託について 3 市内道路の陥没対策について 	

通告番号	会派名	氏名
1	新政会	池田英司

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>路上喫煙やタバコ等のポイ捨てについて</p> <p>市では、平成30年4月より、喫煙者と非喫煙者との協力の下、安全かつ快適な生活環境の確保及び維持並びに環境美化の促進に寄与することを目的に「稲城市路上喫煙の制限に関する条例」を施行しております。条例施行から6年が経過し、市内全域6駅周辺に設定いたしました「路上喫煙禁止区域」におきましては、条例の効果も表れてきておりますが、未だに一部の区域では、タバコ等のポイ捨てが後を絶たない状況が見受けられます。</p> <p>そこで今回、タバコ等のポイ捨てにつきまして、質問いたします。</p> <p>(1) 条例施行から6年が経過しておりますがなぜ、タバコ等のポイ捨ては無くならないのか。見解を伺います。</p> <p>(2) 条例により市内6駅周辺を路上喫煙禁止区域に設定しておりますが、中でもタバコ等のポイ捨てが多く見られる場所の状況について伺います。</p> <p>(3) タバコ等のポイ捨てをしない！させない！ための現在の取り組みについて伺います。</p> <p>(4) 路上喫煙防止指導員を配置しているのにタバコ等のポイ捨てが減少しない状況について市の見解を伺います。</p>	

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(5) 条例施行より6年が経過し、路面シートなどの啓発物が劣化している箇所があります。今後の対応について伺います。</p>	
2	<p>都道川崎街道南多摩水再生センター東交差点の交通安全について</p> <p>都道川崎街道の南多摩水再生センター東交差点から出入りする南多摩スポーツ広場は多目的広場のほかにサッカー場やテニスコートなどがあり、市民等がスポーツやレクリエーション活動を行える素晴らしい施設で、土日などを中心に利用者で賑わっております。</p> <p>同施設へのアクセスとしましては、遠方から来られる方は自動車で来られる方もいらっしゃいますが駐車場の台数の関係から、総排気量50CC以下の原動機付自転車等を運転してこられる方も多いと認識しております。</p> <p>(1) 南多摩水再生センター東交差点において、総排気量50CC以下の原動機付自転車等を運転する場合における大丸方面から右折する方法について伺います。</p> <p>(2) 南多摩水再生センター東交差点における、今後の安全対策について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
2	公 明 党	つ の じ 寛 美

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>バス停ソコラ若葉台への屋根の設置について</p> <p>平尾地域の多くの方々が、ソコラ若葉台をバスでご利用されます。ベンチの設置に際しては、多くの喜びの声が寄せられました。しかしながら、現在の場所は日差しが強く、高齢者の方々から屋根の設置を求める声も多く上がっています。</p> <p>市の見解を伺います。</p>	
2	<p>認知症のケア技法「ユマニチュード」の普及啓発について</p> <p>ユマニチュードは、認知症の人に「あなたを大切に思っている」ことを表現するケア技法。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の四つの柱となっています。実践した現場からは、歩けなかった高齢者が歩けるようになった、看護師や介護士の負担軽減につながったとの報告があります。</p> <p>(1) 認識について伺います。</p> <p>(2) 今後の市の取組について伺います。</p>	
3	<p>物価高騰・経済対策並びに熱中症対策等について</p> <p>令和6年7月22日、都議会公明党は、物価高騰・経済対策並びに熱中症・新型コロナウイルス対策等に関する緊急要望を都知事に対して提出致しました。稲城市における取組について伺います。</p> <p>(1) 物価高騰・経済対策 について</p> <p>① 市における物価高騰・経済対策の実施状況について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	②今後の物価高騰・経済対策に対する市の考え方について伺います。	
	(2)熱中症対策 について	
	①市が発注する工事における熱中症対策の現状について伺います。	
	②クーリングシェルの設置の状況について伺います。	
4	<p>絵本で伝える3. 11の普及啓発について 東日本大震災を知らない子どもたちへ経験と教訓をどう伝えるか。7月21日、宮城県石巻市で絵本を通した伝承活動をテーマに、トークセッションが行われました。この催しには、我が子を3.11に亡くし、あの日の出来事と命の大切さを伝え続けている方々が登壇。2人ともそれぞれ令和6年3月に絵本を出版しました。稲城市の子どもたちにも命を守る防災教育は必須だと感じます。</p> <p>(1)小学生の防災教育について伺います。</p> <p>(2)小学生へ絵本で伝える3. 11の取組について伺います。</p> <p>(3)市内の図書館での絵本で伝える3. 11の取組について伺います。</p>	
5	<p>自治体DX推進による窓口改革について コロナ禍におけるデジタルツールの普及や、今後の少子高齢化、人口減少を見越した行政資源の効率的活用のため、住民との重要な接点である窓口の改革が全国の自治体で進められています。今まで、市議会でも、「書かない窓口」や「御遺族支</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>援コーナー」の設置について取り上げており、市では行政手続きのオンライン化を優先事項として進めていると認識しています。その後の行政手続きのオンライン化の進捗と、市の窓口改革への認識について伺います。</p>	
	<p>(1)行政手続きのオンライン化の進捗状況について伺います。</p>	
	<p>(2)窓口改革への市の認識について伺います。</p>	
	<p>(3)「御遺族支援コーナー」の設置について伺います。</p>	
<p>6</p>	<p>平尾地域の樹木の根上り対策について成長している樹木が、街路灯を塞ぎ夜間暗いことや、樹木の根上りなどで、転倒事故に繋がると懸念する声も伺っております。平尾地域の高齢化が進んでいることも踏まえ、安全対策について伺います。</p>	
	<p>(1)現状について伺います。</p>	
	<p>(2)今後の取組について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
3	日本共産党	山岸太一

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>介護保険を支える職員不足と待遇改善による人材確保について</p> <p>厚労省が7月12日に「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」を公表しました。これによれば、将来的に介護職員の大きな不足が見込まれています。地域で介護保険を支える介護職員に対して、市としても支援を行っていくことを求める立場から質問をします。</p> <p>(1) 7月12日付公表の同資料で述べられている今後の介護職員の必要数について聞きます。</p> <p>(2) 7月12日付公表の同資料で述べられている介護人材確保対策について聞きます。</p> <p>(3) 稲城市介護保険事業計画(第9期)に基づく介護職員数について現状と将来の必要数の見通しを聞きます。</p>	
2	<p>非正規職員の待遇改善による、誰もが安心して働ける公務職場づくりについて</p> <p>前回の一般質問において市役所の非正規職員である会計年度任用職員のほとんどが女性であり、男性正規職員との賃金格差は約3倍であることが判明しました。非正規職員の人たちの労働条件を改善し、安心して働ける市役所にしていくことを求める立場から質問します。</p> <p>(1) 会計年度任用職員の現状について</p> <p>① 第1種会計年度任用職員と第2種会計年度任用職員の役割や業務内容の違いについて聞きます。</p> <p>② 令和2年度(2020年度)から5年度(2023年度)までの年度末時点での第1種および第2種会計年度任用職員の職員数について聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>(2) 会計年度任用職員の公募任期について</p> <p>① 令和6年6月28日付「『会計年度任用職員制度の導入等に向けた事務処理マニュアル(第2版)』の改正について」で変更箇所として述べられている内容について聞きます。</p> <p>② 現在の稲城市の会計年度任用職員の契約更新回数の上限について聞きます。</p> <p>③ 今後、契約更新回数の上限を見直すことについて認識を聞きます。</p> <p>(3) 会計年度任用職員の待遇改善について</p> <p>① 会計年度任用職員の制度開始からこれまでの報酬や待遇の改定状況について聞きます。</p> <p>② 安心して働き続けることができるためにも、すべての会計年度任用職員について時給1500円以上を基本にすべきと考えますが認識を聞きます。</p> <p>市民の同意のない自衛隊への個人情報の提供について 市内の未成年の保護者に対して、自衛隊から学校案内のハガキが届くという事例が明らかになっています。本人や保護者の同意がない中で個人情報を提供するようなことに反対する立場から質問します。</p> <p>(1) 自衛隊への個人情報提供の状況について</p> <p>① 自衛隊に対して市民の個人情報を提供している内容について聞きます。</p> <p>② 多摩地域の自治体での自衛隊への個人情報提供の実施状況について聞きます。</p> <p>(2) 個人情報の適正な管理について</p> <p>① 住民基本台帳法が定めている「情報の外部提供」の内容について聞きます。</p> <p>② 自衛隊への個人情報の提供にあたっての本人や保護者の同意の有無について聞きます。</p> <p>③ 自衛隊への個人情報の提供をやめるべきだと考えますが認識を聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p>早急な学校給食費無償化の実施について いよいよ学校給食費無償化は当たり前の状況になってきています。市民や保護者からも「なぜ、稲城市は実施しないのか」という声が寄せられています。早急な給食費無償化の実施を求める立場から質問します。</p> <p>(1) 多摩地域で小中学校の給食費が無償化・一部無償化(第2子・第3子等)となっている自治体名について聞きます。</p> <p>(2) 給食費の無償化について市民や保護者から寄せられている声や要望について聞きます。</p> <p>(3) 東京都に対して現在の負担軽減事業の来年度以降の継続と全額補助を求めることについて認識を聞きます。</p> <p>(4) 年度途中からでも学校給食費無償化を実施すべきと考えますが認識を聞きます。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
4	新政会	坂田 たけふみ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>教育支援室（梨の実ルーム）分室の設置及び学びの多様化学校（教室）設置について</p> <p>現在稲城市では、令和6年度から全中学校にて、様々な事情により学校に登校出来ない生徒が過ごすことができるよう校内別室指導支援員制度がスタートしました。また、学校に足を運ぶ事が難しい児童生徒には、教育支援室（梨の実ルーム）があり、こちらは小学生も対象であり、学校に通う事が難しい児童生徒たちのセーフティネットとして大変重要な施設であると考えます。しかしながら、校内別室指導支援員制度は対象が中学生のみであることや、そもそも学校に通う事が難しい児童生徒は利用できない、また梨の実ルームが現在設置されているふれんど平尾は、場所柄通う事が難しいという声を多く聞きます。</p> <p>そこで、市内にもう一ヶ所梨の実ルームの分室を設ける必要性和同時に、誰もが学びの機会を得るために学びの多様化学校設置に向けた検討も行っていただきたいと思えます。</p> <p>多様性を認める社会を実現する為にも、不登校児童生徒たちへの支援は必要不可欠だと考え、以下の質問を行います。</p> <p>(1)教育支援室（梨の実ルーム）について</p> <p>①教育支援室（梨の実ルーム）に寄せられる保護者からの声について</p> <p>②教育支援室（梨の実ルーム）への通学手段について</p> <p>③教育支援室（梨の実ルーム）の教職員等の確保について</p> <p>④文化センターや地域振興プラザ等の公共施設を活用した場所の確保等について</p> <p>(2)学びの多様化学校について</p> <p>①市の認識について</p> <p>②設置に向けた課題について</p> <p>③教職員等の確保について</p> <p>④既存学校を活用した夜間学校について</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>南多摩尾根幹線及び鶴川街道百村区間の整備について</p> <p>令和4年第3回定例会の一般質問で百村のまちづくりの質問の中で、南多摩尾根幹線道路と鶴川街道百村区間の整備について質問をしました。</p> <p>また両道路については令和6年第1回定例会の代表質問においても事業進捗について質問させていただいております。その後、南多摩尾根幹線道路については先日7月31日に、地域住民へのオープンハウス形式の説明会を実施したと伺っております。これら両道路においては、市を横断する交通量の多い幹線道路ですが、交通量の増加に伴い、慢性的な渋滞や交通事故の危険性について市民からも多く意見が寄せられております。両道路の整備は市民の生活や交通の利便性、安全性を向上させる為、一日でも早い整備が期待されます。</p> <p>(1) 南多摩尾根幹線について</p> <p>①現在の市内における南多摩尾根幹線の整備状況と今後の予定について</p> <p>②令和6年7月に東京都が百村コミュニティ防災センターで行ったオープンハウス形式の説明会の内容について</p> <p>③令和4年3月に百村自治会長から南多摩東部建設事務所長に提出された「多3・1・6号南多摩尾根幹線道路整備に対する要望書」の内容について</p> <p>④要望書における東京都の対応状況について</p> <p>(2) 鶴川街道百村区間について</p> <p>①令和6年第1回定例会の代表質問で道路用地の取得率は約34%と伺っておりますが、現在の取得状況と工事内容について</p> <p>②東京都との情報共有及び進捗状況の確認を行うことは不可欠と考えるが、市の見解について</p>	

通告 番号	会 派 名	氏 名
5	新 政 会	角 田 政 信
項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>『ジャイアンツタウンスタジアム』の開業に向けて 新しい球場の名称が決まり、開業まであと半年となりました。 今後、稲城市には多くの方が訪れることとなり、これまでにない機会とな ると考えますが、市の見解について伺います。</p> <p>(1) 稲城市の魅力発信について 市の認知度向上にも、こうした機会を捉えた情報発信が重要になるか と考えます。たとえばスタジアムがオープンする3月は、ちょうど桜の時 期でもあり、三沢川の桜回廊など市内の見どころを多くの方に知ってい ただくよい機会と考えます。そこで市の魅力をどのようにPRしていくの か伺います。</p> <p>(2) オーバーツーリズムの課題について 各地の観光地では、過剰な観光客で混雑しすぎること、地元の生活 環境や自然環境が破壊され、持続可能な観光が困難になるオーバ ーツーリズムと呼ばれる現象が起こっています。当市においても、今後、多 くの方が訪れることが想定されるわけですが、そのことによる課題につい て市の考えを伺います。</p> <p>(3) 稲城市を回遊してもらうことについて 稲城市を訪れた多くの方を、市の賑わいの創出につなげるためには、 市内に足を伸ばしていただかなければなりません。市内を回遊してもら うことについて市の見解を伺います。</p>	
2	<p>稲城市ホームタウンアスリート認定制度について 令和6年7月23日稲城市ホームタウンアスリートであるパラ卓球競技 の七野一輝選手とゴールボール競技の萩原直輝選手のパリ2024パラ リンピック競技大会壮行会が、開催されました。 そこで、稲城市ホームタウンアスリート認定制度について伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
6	稲志会	中島 健介

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城市の少子化対策について</p> <p>日本では、1989年の合計特殊出生率が1.57であったことから生まれた言葉「1.57ショック」をきっかけに、少子化問題が注目されました。</p> <p>その後、1992年に出された国民生活白書「少子社会の到来、その影響と対応」の中で、少子社会の現状や課題を説明する上で政府の公的文書内で初めて少子化という言葉が使用され、解説・分析が行われました。</p> <p>以来、我が国の出生数は減少傾向にあり、2024年6月、厚労省の発表によれば、2023年の出生数は約72.7万人、前年度比マイナス5.6%、合計特殊出生率は過去最低を更新する1.20でありました。</p> <p>さらに、2024年の出生数も減少傾向にあり、70万人を割り込む可能性が高いと予測されています。</p> <p>少子化の与える影響として、労働供給の減少、将来の経済や市場規模の縮小、経済成長率の低下、地域・社会の担い手の減少、現役世代の負担の増加、行政サービスの水準の低下など、社会経済に多大な影響を及ぼすことが挙げられます。</p> <p>そこで、一般質問を通じて、稲城市の少子化に対する考えや現状の取り組みについて伺うとともに、こどもたちの魅力を多くの方に伝えるような新しい切り口で、こどもを産み育てることが人生最大の幸せであると感じてもらえるような少子化対策のあり方について議論してまいりたいと存じます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	企業版ふるさと納税について	
	<p>「企業版ふるさと納税」は、地方創生、人口減少克服などの国家的課題に対応するため、地方公共団体が行う一定の地方創生事業に対して企業が寄附を行うことにより、地域創生を活性化する狙いから、平成 28 年度に開始されました。</p> <p>令和 2 年度に税制改正がなされ、内閣府の発表によれば、寄附額・件数ともに増加傾向であります。</p> <p>また、これまで企業は業績のみで評価される傾向にありましたが、近年は「環境や人権など社会に対していかに配慮しているか」という点も重視されるようになりました。</p> <p>こうした社会情勢の中で、企業が「企業版ふるさと納税」を活用することによって、積極的に社会的責任を果たす活動に取り組むことができるということも、「企業版ふるさと納税」が注目される要因であると推測されます。</p> <p>私は、「企業版ふるさと納税」は自治体の課題を企業と協力して解決することができるだけでなく、新しい価値を生み出すことができる制度であると考えています。</p> <p>また、返礼品競争の「個人版ふるさと納税」とは異なり、「企業版ふるさと納税」は社会の夢・希望・想いに対する寄附であり、稲城市も積極的に活用することのできる制度であると考え、一般質問させていただきます。</p> <p>現行の「企業版ふるさと納税」は令和 7 年 3 月末までの制度となっておりますが、寄附の動向や多くの自治体から期間延長を求める声があることを踏まえ、現行の「企業版ふるさと納税」が延長されるということを前提に、改めて企業版ふるさと納税の本来の目的やこれからの活用方針などについて伺ってまいります。</p>	

通告番号	会派名	氏名
7	公明党	湯谷 ひろし

項目番号	質問要旨	摘要
1	「1か月児健康診査」と「5歳児健康診査」の導入について	
	令和6年1月1日から「1か月児健康診査」と「5歳児健康診査」を実施する市区町村への国の助成事業が始まりました。これは、公明党が令和5年10月、岸田首相への提言の中で、助成の対象年齢時期を追加し、出産から就学前までの切れ目のない健康診査の実施体制を整備することを要請したことで、令和5年11月に成立した令和5年度一般会計補正予算に必要経費が計上されました。	
	これらの健康診査は、こどもの身体の発育状況や栄養の状態を確認し、子どもの発達に関する問題について認識するよい機会となります。「1か月児健康診査」と「5歳児健康診査」を早期に導入すべきであるとの立場から質問を致します。	
	(1)こども家庭庁が推進している1か月児及び5歳児健康診査について	
	①母子保健医療対策総合支援事業(令和5年度補正予算分)の概要について伺います。	
	②1か月児及び5歳児健康診査支援事業の詳細について伺います。	
	(2)子どもの発達に関する問題に関する取り組みについて	
	①4歳児のいる世帯を対象とした就学前発達相談の取り組みについて伺います。	
	②過去3年の稲城市発達支援センターレスポーンなぎの	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	相談件数について伺います。	
	③令和5年度における3歳児健康診査において心理相談を受けた件数について伺います。	
	(3)稲城市における子どもの発達に関する問題についての今後の取組みについて	
	①1か月児健康診査及び5歳児健康診査の導入の検討について伺います。	
	②稲城市発達支援センターレスポ一いなぎにおける子ども発達に関する問題についての今後の取組みについて伺います。	
2	稲城市の空家対策について	
	令和5年12月13日、「空家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律」が施行されました。公明党は、この法改正を強く推進して参りました。特に国会質疑の中で、市区町村が空家の「空家等活用促進区域」を円滑に設定できるように国の支援を求めてきた経緯がございます。	
	改正法の施行に合わせ、令和5年12月、国土交通省は「空家等活用促進区域の設定に係るガイドライン」を公表しました。	
	これからの稲城市のまちづくりを考える上で、今後、増える空家等の利活用を考慮に入れたまちづくり及び更なる空家予防対策が必要であるとの立場から質問を致します。	
	(1)稲城市における空家の実情等について	
	①空家に関して、過去3年間に市民等から市に寄せられた相談件数を伺います。	
	②稲城市の特定空家及び管理不全空家の件数を伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(2)「空家等活用促進区域の設定に係るガイドライン」について</p> <p>①「空家等活用促進区域の設定に係るガイドライン」について概要を伺います。</p> <p>②東京都の市区町村における空家等活用促進区域設定の状況について伺います。</p> <p>③市内の空家等活用促進区域の設定について市の考えを伺います。</p>	
	<p>(3)稲城市の空家発生予防対策等について</p> <p>①空家所有者の管理意識の醸成と啓発について</p> <p>②令和6年4月1日から義務化された相続登記の申請に関する周知について</p> <p>③関係団体や地域との協力体制の構築について</p>	
3	<p>身寄りのない高齢者等への支援について</p> <p>更なる高齢化と未婚化、単身世帯化の進行により、国の推計では、65歳以上の単身世帯は、2020年の738万世帯から2050年には1.5倍の1084万世帯に増え、全世帯の2割を占める時代になります。</p> <p>現在、「高齢社会対策大綱」改定に向けた検討がされておりますが、そこでは、身寄りのない高齢者等への支援についても議論がされております。頼れる身寄りがいなくても、安心して老後を過ごせる環境を整えることが必要であるとの考えから質問を致します。</p>	
	<p>(1)市内の独居高齢者の現状について</p> <p>①稲城市の総世帯数と65歳以上の単身世帯数、その割合</p>	

通告番号	会派名	氏名
8	稲志会	川村あや

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城市地域包括支援センターこうようだいの活用について</p> <p>令和6年6月に、きらぼし銀行稲城向陽台出張所建物内に稲城市地域包括支援センターこうようだいが移転されました。こちらは、株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループ、株式会社きらぼし銀行、アースサポート株式会社、そして稲城市との協定締結により実現したものです。</p> <p>地域包括支援センターは、高齢者の方が住み慣れた地域で、その人らしく暮らし続けられるように、介護・福祉・保健・医療など、様々な面で支援を行うための総合相談機関です。</p> <p>また、稲城市では、地域のネットワークづくりの支援も行うことが業務の柱として提起されています。</p> <p>今回、広いスペースのある場所に地域包括支援センターこうようだいが移転したことで、これまでよりも更に活用の幅が広げられる可能性があると考え一般質問させていただきます。</p>	
	<p>(1) 稲城市地域包括支援センターこうようだい移転前について</p> <p>① 移転前のサービス状況について伺います。</p> <p>② 移転前の利用者状況について伺います。</p> <p>(2) 稲城市地域包括支援センターこうようだいの移転について</p> <p>① 移転するに至った経緯について伺います。</p> <p>② 移転後のサービス状況について伺います。</p> <p>③ 移転後の利用者状況について伺います。</p> <p>(3) 稲城市地域包括支援センターこうようだいを地域のネットワークづくりの場所と併設させることについて</p> <p>① 地域コミュニティの場所として開放することについて伺います。</p> <p>② 今後の活用方法について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>市内小中学校のタブレット端末利用状況および トラブル回避について</p>	
	<p>現在、小中学生にとってタブレット端末は当たり前のツールとして使用されています。稲城市では、令和2年12月から市内18の小中学校に貸与されました。</p> <p>当初は、教員も生徒も十分な活用方法を見出すことが難しい状況ではありましたが、コロナ禍を経て、当初の目的であった、子どもたちの学習意欲や学力の向上等にも大きく影響していると思います。</p> <p>貸与から4年を迎えるにあたり、現在の活用状況および現状把握の観点から質問させていただきます。</p> <p>(1) タブレット活用のガイドブック「I」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「I」の3つのコンセプトについて伺います。 ② オリジナルな学びについて伺います。 ③ インタラクティブな学びについて伺います。 <p>(2) タブレット端末でのトラブルについて伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
9	公明党	佐藤しんじ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城第七小学校通学路の安全対策について</p> <p>通学路における安全対策は、不断の取り組みが必要であり、市としましても、PTA や保護者等からの意見、要望をお聞きしながら、実施に努めていただいていると承知いたしております。私も、登校時の児童が交通事故に遭わないよう、その一助になればと、市内の通学路で見守り活動をさせていただいております。その上で今回、稲城第七小学校通学路の安全対策について伺って参ります。</p> <p>(1) 現在の稲城第七小学校通学路における、過去5年間の交通事故発生件数について伺います。</p> <p>(2) 安全対策について伺います。</p> <p>① 通学路点検における、PTA や保護者等からの意見、要望について伺います。</p> <p>② これまで実施された安全対策について伺います。</p> <p>③ 今後の取り組みについて伺います。</p> <p>(3) 弁天通りは時間帯により車両通行止めの規制がかけられていますが、規制に至った経緯について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>健康格差の縮小と健康寿命の延伸に関する取り組みについて</p> <p>心身共に生涯健康であること。それは、人生 100 年時代において、多くの市民の願いであると思います。その実現には、健康格差の縮小と健康寿命の延伸に関する取り組みの更なる充実が求められると考えます。会派視察で北海道江別市に伺い、「生涯健康プラットフォーム推進事業」について調査してまいりました。デジタル機能を活かした個別最適化されたサービスにより、市民が健康管理等を手軽にできるようにする取り組みであり、市民お一人お一人に市がコミットするこのような取り組みは、健康格差縮小と健康寿命延伸に寄与するものであると考えます。</p> <p>(1) 健康格差について伺います。</p> <p>① 稲城市における健康格差に対する認識について伺います。</p> <p>② 健康格差縮小への市の取り組みについて伺います。</p> <p>(2) 健康寿命について伺います。</p> <p>① 稲城市における健康寿命に対する認識について伺います。</p> <p>② 健康寿命延伸への市の取り組みについて伺います。</p> <p>(3) 北海道江別市の取組み「生涯健康プラットフォーム推進事業」のような、デジタル機能を活用した、個別最適化されたサービスについて、市の認識を伺います。</p>	

項目番号	質問要旨	摘要
3	<p>救急車の適正利用及び Live119 映像通報システムの導入について</p> <p>緊急性が低い病気やケガなどで救急車の利用が増えると、救えるはずの命が救えなくなる事態が発生する可能性が高まります。そのような事態を回避するため、救急車の適正利用が市民に求められています。また、救命率向上のため、新たな通報システムとして、Live119 映像通報システムを導入する自治体が増えています。東京消防庁におきましても、令和2年9月より導入していると伺っています。Live119 映像通報システムは、通報者のスマートフォンを使い、救急現場などの映像を災害救急情報センターに送信等ができる仕組みで、管制員は、送られてきた映像を見ながら応急手当の方法を指導したり、応急手当のやり方が分かる動画を通報者へ送信することができるシステムだと認識しております。救命率向上のため、この Live119 映像通報システムを、稲城市も導入すべきであると考えます。</p> <p>(1) 過去3年間の救急出場件数と、軽症者の割合について伺います。</p> <p>(2) 救急車の適正利用について、市民への周知方法について伺います。</p> <p>(3) Live119 映像通報システムの導入について、市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
10	改革未来の会	岩佐ゆきひろ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>市立小中学校内トイレの管理について</p> <p>(1) 稲城市内には小学校 12 校、中学校 6 校の合計 18 校の公立小中学校がありますが、その管理等について伺います。</p> <p>①各小学校のトイレの数と管理方法 ②各中学校のトイレの数と管理方法</p> <p>(2) 今年度に入り児童、生徒または保護者からトイレが汚くなったという意見を何度か伺いました。市の見解について伺います。</p>	
2	<p>電動自転車の普及と促進について</p> <p>(1) 高齢者の重大な交通事故が相次いで発生しており社会問題になっていますが、自転車のまち稲城を掲げる本市において、高齢者に対しての自転車の普及への見解と取組を伺います。</p> <p>(2) 免許の返納をしやすくする為、また高齢者の方が市内の移動、買い物等、身近な移動に自転車を利用しやすくなるよう、高齢者の方への電動アシスト自転車の購入補助制度を導入すべきと考えますが市の見解を伺います。</p>	

<p>3</p>	<p>特殊詐欺から市民を守る取組について</p> <p>令和6年上半期に全国で発生しました特殊詐欺は、認知件数8,917件（前年同期比-540件、増減率-5.7%）、被害額227.8億円（前年同期比+29.7億円、増減率+15.0%）となっており、件数は減少したものの、被害金額は大きく増えております。本市の特殊詐欺の発生状況とその対策について伺います。</p> <p>(1) 過去2年間の被害件数と被害額について (2) 令和6年の現在までの被害件数と被害額について (3) 特殊詐欺に対しての市の対策について</p>	
<p>4</p>	<p>熱中症について</p> <p>(1) 令和6年7月に熱中症で病院に搬送された人は全国で4万3195人と、7月としては平成20年に統計を取り始めてから過去2番目の多さとなったことが総務省消防庁のまとめでわかりました。</p> <p>本市の熱中症の対策等について伺います。</p> <p>①過去2年間における熱中症の疑いによる救急搬送件数について ②令和6年における月別の熱中症の疑いによる救急搬送件数について ③熱中症の対策について</p>	

(2) 令和6年4月に改正気候変動適応法が施行され、従来の熱中症警戒アラートより一段階上の警戒情報である「熱中症特別警戒アラート」が創設されました。

市ではこれまで夏の熱中症対策として開設していた「熱中症防止シェルター（涼み処）」を、「涼み処（クーリングシェルター）」として指定し、熱中症対策のために開放しておりますが、以下の点について伺います。

①開設時期について

②クーリングシェルター（涼み処）の指定登録施設・店舗の募集状況について

通告番号	会派名	氏名
11	日本共産党	岡田まなぶ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>補聴器購入助成など加齢性難聴の聞こえの支援について</p> <p>(1) 加齢性難聴の方の生活の質を保つうえで、難聴発症後の早期診断、補聴器使用などが重要と考えるが認識は。</p> <p>(2) 高齢者の加齢性難聴の聞こえに関する啓発や学習会、講演会等の取り組みについて。</p> <p>(3) 補聴器の普及を進める上で金額が高いことが課題となっている。補聴器の購入助成を実施する自治体が増えている。東京都の「高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業」を活用して、高齢者の加齢性難聴を対象にした補聴器購入助成を実施すべきと考えるが認識は。</p>	
2	<p>気候変動対策の推進について</p> <p>日本共産党東京都議団は2024年6月「東京2030 60%脱炭素 実行プラン-東京から『2030年・温室効果ガス60%削減』の流れをつくろう」を発表した。気候変動から地球環境を守る取り組みが最重要課題となるなか、市の取り組みを問う。</p> <p>(1) 気候変動対策について、市の重要性の認識と取り組み姿勢は。</p> <p>(2) 市における温室効果ガス排出量の削減目標は。</p> <p>(3) 公共施設の再生可能エネルギーの導入促進の取り組み状況は。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>(4) 公共施設の断熱対策など省エネルギー化の推進について。</p> <p>(5) 脱炭素なまちづくりの推進の取り組みについて。</p> <p>(6) 令和5年第1回定例会で「カーボンニュートラルに関する市民向け講演会等の開催を検討する」と答弁しているが取り組み状況は。</p> <p>3 路線バス・iバスの維持・拡充について</p> <p>(1) 市民の暮らし、通勤・通学に欠かせない地域公共交通としての路線バス、iバスの重要性についての市の認識は。</p> <p>(2) 南山地域への路線バス・iバス運行の検討状況は。</p> <p>(3) 2024年3月から市内の路線バスが減便になり、市民から「困っている」「元に戻してほしい」との切実な声が引き続き寄せられている。地域公共交通として、3月以前の便数に戻すことを京王バス、小田急バスに求めるべきと考えるが認識は。</p> <p>(4) 今後、路線バス、iバスが減便とならないように取り組むべきと考えるが認識は。</p> <p>(5) 路線バス、iバスの維持・拡充のために、東京都市長会などを通じて、国、東京都に支援・補助を求めるべきと考えるが認識は。</p> <p>4 少人数学級の拡充について</p> <p>(1) 少人数学級の実施状況と今後の拡充について。</p> <p>(2) 中学校全学年までの早期の少人数学級実施を国・都に求めるべきと考えるが認識は。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
12	無所属	武田まさひと

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	公園トイレの設置状況と配置の考え方について	
	近年自然災害が多発していますが、そのような緊急時に公衆衛生を保つという面で、誰もが利用できる公園トイレに期待される役割は高まりを見せています。稲城市内においても様々な状況を判断してトイレの設置を行っているとは認識していません。しかし、市民からの不足の声が寄せられていることから自然災害時対策としての考え方はもちろん、高齢者や散歩やジョギング、お子様連れのご家族、公園で遊ぶ子供たちからも、近隣でトイレを借りられる施設がない公園にトイレの設置を望む声が多くあるため質問をします。	
	(1) 公園トイレの現状を伺います。	
	①現在の稲城市内の公園トイレの総数を伺います。	
	②稲城市の公園トイレ配置の考え方を伺います。	
	(2) 市民からの声が多い押立地区について、近隣でトイレを借りることができる施設はDCM稲城押立店やファミリーマート稲城長沼店、第四文化センター、ファミリーマート矢野口駅前店以外にないと認識しています。トイレ適正配置とされる半径500m以内には一か所も公衆トイレの設置されている公園がないと認識していることから質問します。	
	①押立地区の公園トイレの配置について考え方を伺います。	
	②稲城市の公園トイレ配置の考え方を伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(3) 平尾入定塚児童公園は、最寄りのコンビニや薬局までトイレまで600m以上離れていて坂道も続いていることから、トイレの設置を望む声があります。公園にトイレを設置すべきと考えますが、市の考えを伺います。</p>	
2	<p>避難行動要支援者の個別避難計画および要配慮者利用施設の管理者等の避難確保計画の作成等の義務化の対応について</p>	
	<p>令和元年の台風19号をはじめ近年多発している豪雨災害において、高齢者などの死亡率が高かったことから、令和3年5月の災害対策基本法の一部の改正により、個別避難計画の作成が努力義務となりました。稲城市においても、すでに災害時の円滑迅速な避難を図ることを目的として、個別避難計画の作成を進めていると思いますが、改めて確認します。また、平成29年の要配慮者利用施設の避難体制の強化を図るために施行された水防法および土砂防災法の改正により、施設の所有者や管理者が避難確保計画の作成や訓練の実施が義務とされていますが、市の現状について伺います。</p>	
	<p>(1) 個別避難計画の作成の対象者について伺います。</p>	
	<p>①どんな方が対象となるのかを伺います。</p>	
	<p>②対象者は何名で、その中で現在個別避難計画を作成している方は何名かを伺います。</p>	
	<p>(2) 個別避難計画情報の記載項目について伺います。</p>	
	<p>①個別避難計画情報の作成は誰がどのように行っているのかを伺います。</p>	
	<p>②稲城市の個別避難計画の記載項目を伺います。</p>	
	<p>(3) 避難行動要支援者名簿や個別避難計画を活用した平時の訓練の状況を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(4) 平成29年に施行された水防法の改正により、洪水や高潮の浸水想定区域内に所在する要配慮者利用施設の所有者や管理者が避難確保計画を作成し、市長に報告し、訓練を実施することを義務付ける規定が追加されました。現状と支援体制について伺います。</p>	
	<p>① 稲城市内の対象施設数を伺います。</p>	
	<p>② 要配慮者利用施設における避難確保計画作成の状況を把握していると思いますが、未計画の施設はあるのか。ある場合、何か所あるのかを伺います。</p>	
	<p>③ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成等の支援や指導が必要だと考えますが、どのような支援・指導を行っているのかを伺います。</p>	
	<p>(5) 土砂災害防止法では、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成等について、努力義務の段階を経ることなく、義務となっていますが、市の支援体制について伺います。</p>	
	<p>① 要配慮者利用施設の避難確保計画作成等の支援が必要となるかと思いますが、対象となる施設数を伺います。</p>	
	<p>② 要配慮者利用施設の避難確保計画作成等の支援内容について伺います。</p>	
	<p>③ 今までの効果と今後の課題について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
13	無 所 属	村上洋子

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1.	校内別室指導支援員の活用状況と今後の取組について	
	<p>稲城市立学校における不登校や不登校傾向の児童生徒は、コロナ禍を経て増加しており、本人にとっても保護者にとっても最も困り感を抱える課題のひとつとなっています。</p> <p>2023年(令和5年)年度途中より、東京都による補助事業として校内別室指導支援員の配置がスタートし一定の成果をあげています。</p> <p>校内別室指導支援員の成果を検証し継続・推進すべきと考えます。</p> <p>課題についての市の見解と今後の取組について伺います。</p>	
	<p>(1) 校内別室指導支援員の活用状況について</p> <p>① 2023年度(令和5年度)の活用状況について伺います。</p> <p>② 2024年度(令和6年度)の活用状況について伺います。</p> <p>(2) 成果について伺います。</p> <p>(3) 課題について伺います。</p> <p>(4) 今後の取り組みについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2.	<p>子どもの意見表明を促進するための子どもアドボカシーの取組について</p>	
	<p>2022年の児童福祉法改正では「意見表明を保障する仕組みや子どもの権利のあり方について検討すること」が盛り込まれ、2024年からは各地で具体的な仕組みづくりがはじまっています。</p> <p>まず、社会的擁護における子どもの意見表明を支援することからスタートしていますが、「こども基本法」では常に子どもの最善の利益を第一に考える「こどもまんなか社会」の実現のため、子どもや若者から意見を聴き、それを施策に反映し、子どもへのフィードバックを行うというところまで求められています。</p> <p>学校や家庭など全ての子どもの居る場で、子どもの意見を聴き、子どもが自らの意見や気持ちを表現するための支援である「子どもアドボカシー」の推進が必要と考え、市の認識と今後の取組について伺います。</p>	
	<p>(1) 子どもアドボカシーの必要性の認識について伺います。</p> <p>(2) 稲城市における子どもアドボカシーの取組について伺います。</p> <p>(3) 今後の取組について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3.	(仮称)稲城市子ども計画における子どもの年齢の範囲の考え方等について	
	<p>国の「こども基本法」においては「こども」は「心身の発達の過程にある者をいう」として明確な年齢規定を避け若者を含めています。</p> <p>しかし、(仮称)稲城市子ども計画で扱う事業においては、18歳未満17歳までの児童福祉法によるものが多く、事業区分ごとに年齢規定を明確にしていく事が求められると考えます。</p> <p>「こども基本法」に含まれる若者施策を抱合する計画となる場合には、この点に留意し丁寧な表現をしていく必要があると考え、市の認識を伺います。</p>	
	<p>(1) どのような事業体系となるのか、若者施策も含むのかについて伺います。</p> <p>(2) 事業毎に年齢規定(年齢区分)を明記していく計画であるのか伺います。</p> <p>(3) 既存事業の概ねの数について伺います。</p> <p>(4) 新たに加わる事業について伺います。</p> <p>(5) 「子ども・子育て支援事業計画」から、「子ども計画」に改定する場合の理念については、「こども基本法」の基本理念を重視すべきと考えますが、市の認識を伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
14	無所属	梶浦みさこ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>(仮称)稲城市若者会議などについて</p> <p>市では区画整理事業等による民間住宅供給により子育て世代の転入を主とした人口増加が続いております。同時にニュータウン地域等での急激な高齢化など、現在9万人超の人口がいずれ減少する可能性を鑑み、若者が稲城市で暮らし続けたい、また進学・就職等で転出した若者が稲城市で再び暮らしたい・子育てをしたいと思える、若者にとっての魅力あるまちづくりが重要であると考えております。日頃、市と関わりの少ない若い世代の方々の考えを聴聞し市政に活かす取り組みや「若者会議」等について見解を伺います。</p> <p>(1)第五次稲城市長期総合計画策定での若者の意見聴聞について</p> <p>第五次稲城市長期総合計画の策定の際には若い世代を含め幅広い世代から意見を聴聞したことと記憶しております。特に10代20代の若者の意見について、どのように聴聞し計画策定に反映できたのか伺います。</p> <p>(2)市会議体への若者の参画状況について</p> <p>稲城市の政策の立案・決定に重要な各種委員会や審議会。それらにおいて、高校生や大学生、若い社会人の皆様のご意見をどのように伺い、政策に反映しているか、10代20代の若者が参加している会議体の名称と人数について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(3)青年ワーカーセミナーでの市施策に関する聴聞について 青年ワーカーセミナー事業の目的と、市の施策に対して聴聞の機会があったかについて伺います。</p>	
	<p>(4)(仮称)稲城市若者会議の設置について 各地の若者会議は、若者市民を対象に数日間行う「イベント型」、市内外から広く若者が集う「合宿型」、現場視察や会議を約一年を通じて行う「プロジェクト型」など様々な形態で行われております。 愛知県新城市では、市長の諮問により毎年度行われ、第10期の若者議会が現在進行中とのことです。市内外の25人の若者議会委員をメンター市民・メンター職員がサポートし答申書が作成され、新城市議会にその事業予算案が上程される若者議会が実施されているとのことです。 事業手法や聴聞した意見の施策反映など様々な創意工夫がもとめられる事業であることと考え、(仮称)稲城市若者会議の設置について市の認識を伺います。</p>	
	<p>(5)若者世代の意見聴聞と施策反映について 日頃、市と関わりの少ない若者が稲城市で、学生生活・社会人生活をより充実して送っていただくために必要な市のサポートなど、意見を聴聞する機会をさらに積極的に設けていくべきと考え、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p data-bbox="330 259 1110 304">自走式水洗トイレカー(車両)の導入について</p> <p data-bbox="330 327 1255 495">大規模災害時の衛生的で安全なトイレ環境の確保を図るため、自走式水洗トイレカー(以下トイレカー)を導入する自治体が増えております。</p> <p data-bbox="330 517 1255 875">令和 6 年能登半島地震においても、救援のために各自治体から寄せられたトイレカーが有効であったと被災した輪島市・珠洲市・能登町の首長・議長からお話を伺いました。また熊本市長等から各自治体がトイレカーを保有し災害派遣を相互に行えるような提案等についても伺い、大規模災害等の備えとしてトイレカーの重要性を感じ、質問いたします。</p> <p data-bbox="330 954 1255 1066">(1)トイレカーの災害派遣の活用事例について市の認識を伺います。</p> <p data-bbox="330 1144 1255 1256">(2)トイレカーの市導入を検討することについて見解を伺います。</p> <p data-bbox="330 1335 1255 1447">(3)トイレカーのメリット・デメリットについて市の見解を伺います。</p>	

3	<p>稲城市職員アルムナイ(元職員)採用について</p>	
	<p>アルムナイ(元職員)採用は、業務内容に精通しており即戦力となることから、民間企業等で導入が進んでいる採用の選考方法です。</p>	
	<p>東京都では令和 6 年度より、アルムナイ採用選考が実施されていることから、稲城市としての見解について伺います。</p>	
	<p>(1) 東京都職員アルムナイ採用選考について</p>	
	<p>東京都職員アルムナイ採用選考の制度について、採用職種、職層、採用予定人数、主な配属予定先及び主な職務内容、受験資格、選考方法、主な勤務条件など、概要について伺います。</p>	
	<p>(2) 稲城市職員におけるアルムナイ採用について</p>	
	<p>アルムナイ採用は、労働人口の減少と人材不足の社会情勢から、即戦力となる人材を効率的に獲得する手段として注目されており、中途退職者の登用は、再採用後の研修等にかかる時間とコストの削減が期待されます。また、広い視野と様々な経験を得た優秀な人材の確保の機会となり、ひいては市民サービスの向上につながることを考えます。</p>	
	<p>稲城市職員アルムナイ(元職員)採用など選考方法の導入について市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
15	日本共産党	田島きく子

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>学校の暑さ対策について 今夏もかつてない猛暑の夏となり、長期予報では9月以降も暑い日が続くことが予測されています。児童・生徒たちが安心して学べる環境をつくるためにも、市立小中学校での暑さ対策について質問します。</p> <p>(1) 猛暑が続く中で、学校内での暑さ対策について認識を聞きます。</p> <p>(2) 令和6年第2回定例会で二酸化炭素濃度の検査回数は年1回との答弁でしたが、検査回数を増やすことについて認識を聞きます。</p> <p>(3) 市立小中学校において機器の老朽化によりエアコンが効かないという声を聞きますが、認識を聞きます。</p>	
2	<p>新型コロナウイルス感染症感染対策について 新型コロナウイルス感染症は、この間の新株の置き換わりに伴って、全国的に感染が急拡大し「第11波」が起きています。市民の命と健康を守るための市としての取り組みについて質問します。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症に対して、市として行っている対策について聞きます。</p> <p>(2) コロナ治療薬やPCR・抗原検査への公費補助がなくなって高額になったことで、新型コロナウイルス感染疑いの人が検査や治療を控える状況が発生しているという声を聞きますが、認識を聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>学校トイレへの生理用品の常備について 小中学校のトイレに生理用品を常備することを求めて、若い性を守る立場から質問します。</p> <p>(1) 保健室への生理用品の配置について ① 女子児童・生徒が気軽に保健室に行って生理用品を受け取ることができるための工夫や取り組み状況について聞きます。 ② 急な生理などでとっさに必要な時に保健室以外で生理用品を入手できる取り組みも必要だと考えますが認識を聞きます。</p> <p>(2) 改めてトイレに生理用品を置くことについての課題を聞きます。</p>	
4	<p>マイナンバー保険証の強制中止について</p> <p>(1) 直近のマイナ保険証の利用件数と利用率について聞きます。</p> <p>(2) 10月からマイナ保険証の利用登録の解除が可能になるとされていますが、手続きの概要について聞きます。</p> <p>(3) 市内の一部の薬局等で「12月以降は健康保険証が使えなくなる」という説明がされているという声を聞きます。有効期限内の保険証は使用可能であることや、マイナ保険証を持っていない人でも問題なく医療が受けられることについて、市内の医療機関や薬局への周知状況について聞きます。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
16	稲 志 会	土居のりひろ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	「TOKYO GIANTS TOWN」活性化の為の取組について	
	<p>令和7年3月オープンに向けて、「ジャイアンツタウンスタジアム」の工事が着々と進んでいる「TOKYO GIANTS TOWN」構想。</p> <p>稲城市と包括連携協定を締結している株式会社読売新聞東京本社、株式会社読売巨人軍および株式会社よみうりランドによる、「TOKYO GIANTS TOWN」プロジェクト運営・推進の為の社内カンパニー「東京ジャイアンツタウン・マネジメントカンパニー」が令和6年7月1日付で新設されました。</p> <p>3社の「TOKYO GIANTS TOWN」構想にかける本気度がうかがえる状況となっております。</p> <p>ホームタウンである稲城市としても、今後更に市内の機運を醸成し、まちの活力を高める為に「TOKYO GIANTS TOWN」構想成功に向けた下支えを、総力を挙げて取り組むべきと考えます。</p>	
	(1) 機運醸成について	
	稲城市としても「TOKYO GIANTS TOWN」構想の成功はスポーツツーリズム、市内商工業の活性化、シビックプライド醸成の為に寄与すると考えます。しっかりと市民に認知してもらい、「TOKYO GIANTS TOWN」を歓迎してもらう機運を醸成する為の取組に関して伺います。	
	①現状の取組について	
	②読売グループと連携した今後の取組について	
	③他のホームタウン市と連携した取組について	
	(2) 広報看板などの設置について	
	ジャイアンツタウンへアクセスが可能な京王よみうりランド駅や稲城駅において「ジャイアンツタウンスタジアム」をPRするための設置物が必要と考えるが市の考えを伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	市ホームページ全面改修に関わる地域情報発信について	
	<p>現在稲城市では約 40 団体の自治会組織が運営されています。人口が増え続ける稲城市においても、自治会に加入する人口は減少し、災害時の助け合いの問題や情報の共有など課題が山積しております。</p> <p>新規住民が自治会に加入しない主な要因として、「自治会の存在意義がわからない」「自治会の活動が不明」「回覧板が面倒」などの理由が挙げられます。</p> <p>実際にそれぞれの自治会の活動を検索してみても、活動が見えない自治会が多く存在します。</p> <p>自治会単位で HP の運用や、広報のデジタル化を進めようにも、継続した人材の確保や資金の運用などを考えると難しい背景があります。</p> <p>関連する地域福祉に関わる団体の活動も、紙による情報伝達がメインである為、各地域の広報をまとめる手法として、市のホームページの活用を期待する声を聞いております。</p> <p>令和 6 年度末の公開を目指し進めている、市ホームページ全面改修事業において、市内の各自治会、教育福祉などに関わる様々な団体の取組を、ホームページリニューアルに合わせ、地域の情報が掲載できるように設計することを目的として伺います。</p>	
	(1) 市ホームページ全面改修について	
	①現状について	
	②今後のスケジュールについて	
	(2) 市ホームページの運用について	
	①現状について	
	②セキュリティ上の課題について	
	(3) 地域に特化した市ホームページでの情報発信について	
	①現状について	
	②今後の取組について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	法定外公共物の利活用について	
	<p>法定外公共物とは、いわゆる赤道(里道)・青道(水路)と言われる、道路法や河川法などの特別法の適用を受けない道路や水路であり、平成17年3月31日までに、国から市町村に無償譲与されてからは稲城市が所有し管理する財産の一部です。</p> <p>平成31年度から令和3年度にかけてこの法定外公共物の整理事業が行われ、多くの法定外公共物を用途停止、売払いを行うことで市の財源とする施策を行ってまいりました。</p> <p>しかし現在も手付かずのいわゆる赤道・青道が存在することも事実であり、雑草が繁茂すれば除草し、時には防草シートを張る取組が行われております。</p> <p>法定外公共物を今後更に整理し、隣接する土地所有者にとって有益となり、かつ市の税外収入を増やす観点から伺います。</p>	
	(1) 現状について	
	①平成31年度から3年間の法定外公共物等市有地売払い実績について	
	②法定外公共物の整理対象面積及び件数について	
	(2) 法定外公共物の用途廃止等の流れについて	
	①要件について	
	②課題について	
	③今後の取組について	

通告番号	会 派 名	氏 名
17	改革未来の会	榎本 久春

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>坂浜地域における交通課題や歩行者への配慮について</p>	
	<p>坂浜地域の人口も増え、多くの新しい市民の皆様を迎え、子ども達の元気な声があちらこちらと聞こえるようになり、にぎわいのある地域となってきております。今後も新たな市民を迎えるにあたっては、地域の安全・安心な暮らしを支えるために、諸課題の解決が必要と考えます。交通課題については、これまでも信号機の設置や改善をお願いし、ソコラ若葉台前交差点の信号機の設置や若葉台入口交差点の右折信号の設置など、一定の改善が図られ安全・安心に繋がっていると市民からも声をいただいております。更なる改善が必要との声もいただいていることから、坂浜地域における交差点付近の交通課題や歩行者への配慮について伺います。</p>	
	<p>(1) 坂浜交差点付近の歩行者への配慮について伺います。</p>	
	<p>① 天神通りから鶴川街道へ左折する路上については、稲城第二小学校PTAから車両による児童の巻き込み事故を防止する安全対策の要望があり、巻き込み対策としてゼブラゾーンが設置されています。過去5年間の事故の件数について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>② 鶴川街道を横断した天神通りの歩道側には水路があり法面を改修したことで、交差点部の見通しが改善されました。一方では子ども達が水路に入りやすくなったため深く危険との意見があり、対応をお願いしておりましたが、その後の対策について伺います。</p>	
	<p>(2) ソコラ若葉台前交差点付近の交通課題と歩道の延伸について伺います。</p>	
	<p>① 上平尾方面から車両で走行し、ソコラ若葉台前交差点で右折をする場合に、なかなか右折できない状況にあります。令和5年第2回定例会でも右折信号の設置をお願いしましたが、その後の状況について伺います。</p>	
	<p>② 稲城第二中学校南側の学園通りにおける日本大学敷地内の歩道の設置については、令和4年、5年の定例会でも質問をさせていただき、日本大学からは今後の土地利用を図る際に検討することでした。その後、日本大学側との話し合いで、歩道の設置について前向きに検討していると聞いておりますが、その後の状況について伺います。</p>	
	<p>(3) 歩道や道路の雑草が長く伸びていて、交通の障害になっているとのご意見を伺います。歩道や道路の雑草対策について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	「介護予防・日常生活支援総合事業」の一般介護 予防事業の自主グループの活動とフレイル対策 について	
	<p>一般介護予防事業として取り組まれている自主グループ活動は、家での閉じこもり予防や体力・筋力の低下予防、食欲低下予防など、健康な状態を取り戻す重要な役割を担っています。また、介護予防事業では、医療や介護などにかかる社会保障給付費の伸びを抑制することが期待されるとともに、自立した生活を続ける社会の担い手としての高齢者の活躍が期待されます。筋力などの身体機能が低下し、心身ともに弱ってきた状態を予防するフレイル対策は、今後の高齢化だけではなく、日頃から運動不足な40代・50代・60代前半の方に向けても重要な施策になると思います。一般介護予防事業の自主グループ活動とフレイル対策について伺います。</p>	
	(1) 一般介護予防事業の自主グループ化に向けての取り組み内容について伺います。	
	(2) 一般介護予防事業の自主グループの過去5年間の実績と現状について伺います。	
	(3) 自主グループが継続的に活動しやすい仕組みづくりについて伺います。	
	(4) 高齢者のフレイル対策について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
18	改革未来の会	いそむら あきこ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>こども基本法を踏まえた各計画策定について</p> <p>令和5年4月に、こども基本法が施行し、基本理念として、全ての子どもが個人として尊重され、基本的人権が保障されること、子どもの意見が尊重され、子どもの利益が優先されることなどが掲げられました。子どもの権利としての一層の福祉の充実とともに、より子どもの視点に立った施策の展開が必要であると考えます。</p> <p>そこで、こども基本法を踏まえた「(仮称)稲城市こども計画」及び「第四次稲城市教育振興基本計画」の策定状況について伺います。</p> <p>(1) こども基本法制定の目的について改めて伺う。</p> <p>(2) (仮称)稲城市こども計画について</p> <p>① 本計画の対象年齢とその理由について伺う。</p> <p>② (仮称)稲城市こども計画策定に向けたニーズ調査の目的と対象者ごとの回答数と回答率について伺う。</p> <p>③ こども基本法 第11条では、「こども施策に対するこども等の意見の反映」について明記されているが、本計画での検討状況について伺う。</p> <p>④ 若者に関する施策の整理と新たな施策の検討等も必要であると考えますが、検討状況について伺う。</p> <p>(3) 第四次稲城市教育振興基本計画について</p> <p>① 本計画の策定のポイントについて伺う。</p> <p>② こども基本法を踏まえた本計画の策定について認識を伺う。</p> <p>③ 小学生、中学生、保護者アンケートには、現在、特別支援教育や不登校など、多様な学びの場を必要としている児童生徒及び保護者も対象に含まれているのか。含まれている場合、回答数の内訳と回答結果の分析について伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p data-bbox="326 264 1246 309">学校管理下での事故発生時等の対応について</p> <p data-bbox="326 376 1262 779">令和4年3月に閣議決定された「第3次学校安全の推進に関する計画」において、被害児童生徒等及びその家族に配慮した支援が十分に取られていないと考えられる事案があることや、死亡事故に関する国への報告がなされていない事案も見られることが指摘されました。こうした状況を踏まえ、令和6年3月に、学校事故対応に関する指針（改訂版）が取りまとめられ、本市においても、指針に沿った取組・対応を適切に進めていく必要があると考えます。</p> <p data-bbox="326 790 1262 891">そこで、学校管理下での事故発生時等の対応について伺います。</p> <p data-bbox="333 947 1238 1037">(1) 令和5年度の学校管理下で発生した事故件数及びその内の重大事故に該当する件数について伺う。</p> <p data-bbox="333 1048 1254 1305">(2) 令和3年5月に、環境省と文部科学省が公表した「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」では、熱中症発生時の身体冷却について具体的な内容が示されているが、各学校の危機管理マニュアルへの反映状況と記載内容について伺う。</p> <p data-bbox="333 1317 980 1350">(3) 学校事故対応に関する指針について</p> <p data-bbox="349 1361 1215 1507">① 令和6年3月に、文部科学省が策定した「学校事故対応に関する指針」が改訂されたが、主な改訂内容について伺う。</p> <p data-bbox="349 1518 1144 1563">② 本指針改定後の本市での取組みについて伺う。</p> <p data-bbox="333 1574 940 1608">(4) 学校災害共済給付事業について</p> <p data-bbox="349 1619 1262 1765">① 独立行政法人日本スポーツ振興センターの共済掛金の金額及び保護者と学校設置者との負担割合について伺う。</p> <p data-bbox="349 1776 1262 1921">② 学校管理下で発生した事故により病院で治療を受けた場合、本給付金の手続きから支給までの流れと期間について伺う。</p> <p data-bbox="349 1933 1262 2022">③ 正しく災害共済給付制度を活用してもらうための本市の取組みについて伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p data-bbox="326 264 1260 371">稲城市立病院に入院する子どもの付き添いへのサポートについて</p> <p data-bbox="326 443 1260 949">令和6年度にこども家庭庁と厚生労働省が公表した「入院中のこどもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」によると、子どもが入院した際、親なども一緒に泊まり込んでケアをする「付き添い入院」について、約4割の医療機関が「病状等を勘案した上で、基本的に付添いをお願いしている」との回答結果でありました。病院から付き添いを求められることが少なくない実態や、付き添い入院時に食事や睡眠など親が厳しい環境での生活を強いられるケースも指摘されています。</p> <p data-bbox="326 967 1260 1106">そこで、稲城市立病院に入院する子どもへの付き添いの条件・方針やサポート体制等について伺います。</p> <p data-bbox="332 1173 1251 1576">(1)付き添い入院に関する条件・方針について伺う。 (2)直近3年間の付き添い入院の状況について伺う。 (3)付き添う親などへの食事や睡眠環境、入浴などサポート体制について伺う。 (4)親が付き添い入院時に兄弟の預かりや保育園への送迎など行政サービスを必要とする場合の市との連携や、民間団体等の情報提供について伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p data-bbox="326 264 887 309">自治体 DX の推進について</p> <p data-bbox="326 376 1260 779">令和 2 年、国により「自治体デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画」が策定され、また、令和 4 年、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が閣議決定され、これからの日本が目指すべきデジタル社会のビジョンとして改めて位置づけられました。本市においても、ICT 推進課の設置や行政手続きのオンライン化を進めるための条例制定など、自治体 DX の取組みが進められているかと思えます。</p> <p data-bbox="326 797 1260 887">そこで、本市の自治体 DX の進捗状況や市民の利便性を向上する行政サービスについて伺います。</p> <p data-bbox="326 954 1260 1827"> (1)自治体 DX 推進計画の重点取組み事項のうち、「自治体フロントヤード改革の推進」「自治体の情報システムの標準化・共通化」「自治体の AI・RPA の利用推進」「テレワークの推進」について、本市の進捗状況を伺う。 (2)「稲城市情報通信技術を活用した行政の手続等の推進に関する条例」施行後の取組みについて伺う。 (3)日野市・多摩市・稲城市 DX 人材育成支援業務委託の経緯と内容について伺う。 (4)市民の利便性を向上する行政サービスについて ①体育施設以外の公共施設予約システムでのオンライン決済について導入の検討状況を伺う。 ②粗大ごみ手数料のオンライン決済について認識を伺う。 ③図書館の WEB リクエストサービスについて認識を伺う。 </p>	

通告番号 19	会派名 稲志会	氏名 鈴木 誠
-------------------	------------	------------

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城市の防災（救急）に関する取り組みについて コロナ禍を完全に脱して、今夏も多くの各種大会や行事が行われ、各地に人出があったがそれに比例して我が市内においても怪我や熱中症等の病気発症も増えていることかと思われるが、</p> <p>(1) 救急隊の編成状況について ①改めて、稲城市消防本部における救急体制（隊編成数と常時出動可能隊数）を伺う。 ②消防法施行令第44条に沿って、稲城市の救急隊は何名で出動し、各人に現場での業務をどのように割り振っているのか伺う。 ③上記②の際、人員が不足すると予想されるような現場に対してはどのような対応を取られているのか伺う。</p> <p>(2) 出動件数の変化について ①ここ数年における救急出動件数（夏期及び年間）の変化について伺う。 ②隊員1人あたりの負担は増加していないのか伺う。 ③救急隊員が急遽病欠した場合等の補填対応を伺う。</p> <p>(3) 救急車両の事故時対応について ①万が一、病院搬送中の救急車両が交通事故等に遭遇し搬送が困難になり、さらにそれが市内を抜けた遠隔地であった場合の車両乗り換え対応はどのような運用となっているのか伺う。 ②事故を防ぐ研修等の取り組みは職員向けに十分に取組みられていると思うが、市民側に対しての啓発も必要不可欠である。交通管理者である警察や免許センターとは違った角度から、緊急車両通行時における事故防止施策は稲城市として行われているか伺う。</p> <p>(4) 救出救助、搬送の更なる改善について 令和5年第3回定例会では坂道等の救急搬送が難しい土地での対応を質問させていただいたが、 ①救急活動現場における隊員の負担軽減はどのような工夫がされているか伺う。 ②令和6年8月に発生した平尾団地上層階での火災でも改めて感じたが、高層建物上階からの救助救出における階下への搬送はどのようにしているか伺う。 ③階段用ストレッチャーの導入について市の見解を伺う。 ④電動式ストレッチャーの導入について市の見解を伺う。</p>	

項目 番号	質問要旨	摘要
2	<p>市内公共工事、修繕等の外部発注・委託について 一年前の令和5年第3回定例会で『市における見積りと入札、発注について』を質問したが、その後の状況変化や事業者側からの意見について確認させていただく。</p> <p>(1) ペーパーレス化（電子メール等の活用）について 前回一般質問におけるやりとりでは「見積書の持参、郵送、FAXでの提出を基本としているが電子メールでの提出も可」ということであったが、その他の提出書類でペーパーレス化出来るものは無かったか伺う。</p> <p>(2) 修繕等の調査、見積りについて ①公共施設において修繕が必要である旨が発覚してから、工事完了にいたるまでの基本的な流れを伺う。 ②同修繕工事等に必要な金額の算出は誰がどのように行っているのか伺う。 ③民間住宅建築でも簡単な見積りは無料である場合が多いが、図面をひく段階では有料見積りとなることが多い。稲城市としては見積りに当たってどの程度詳細な事項までの提出を民間事業者側に求めているか伺う。</p>	
3	<p>市内道路の陥没対策について 平成28年に発生し「国内でもこんなことが」と国民を驚かせた博多駅前道路陥没事故もまだ記憶に新しいが、稲城市内の市道においても小規模ながら陥没が見受けられるので質問するが、</p> <p>(1) 道路陥没修繕について ①稲城市内において、年間にどれくらいの件数、割合の道路陥没修繕が寄せられて対応されているか伺う。 ②それらに対して、どのような工法によって修繕対応をされているのか伺う。</p> <p>(2) 頻発する箇所の特定制について 市内での道路陥没情報が寄せられるところは、ある程度偏りがあるようにも感じているが、 ①市として特定の場所において頻繁に起こりやすい等の認識をもっているか伺う。 ②それらの原因をどのように分析されているか伺う。</p> <p>(3) 道路地下の状況調査について ①平成31年頃から路面下空洞調査が稲城市でも行われているが、市内の調査状況と現状の結果について伺う。 ②古地図と比較すれば一目瞭然であるが、稲城市内では川や谷戸の最深部を埋め立てて幹線道路としている箇所が多い。こうした所では地下流水によって埋め立て砂が流れてしまうことなども懸念されるが、特段の対策対応は講じられているか伺う。</p>	